

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194700381), 法人名 (NPO法人絆の郷しきほろ), 事業所名 (さくらさくら認知症対応型グループホーム), 所在地 (北海道 上川郡清水町 下佐幌基線98番地), 自己評価作成日 (令和4年2月3日), 評価結果市町村受理日 (令和4年6月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットの少人数であるメリットを生かし、より家庭的な雰囲気を持つグループホームを目指しています。入居者様は全員女性・スタッフの9割も女性の為、心身のサポートができ、笑いの絶えないホームです。自然豊かな立地条件の下、園芸や作物作り等に力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JisyoVoCd=0194700381-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年4月8日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、清水町中心部から数キロ離れた農業地帯にあり、広大な十勝平野の一面に立地している。敷地は、平成17年に95年の歴史を閉じた旧下佐幌小学校を借り受け、校舎や体育館等は法人本部と小規模多機能事業所が活用しており、当事業所は校舎横に平屋建物を新築し、1ユニット9人の高齢者の生活を支援している。母体であるNPO法人は、隣接する小規模多機能の他に、訪問介護、居宅介護支援等、多様な福祉サービスを地域で展開しており、同町の高齢者支援を担っている。当事業所の優れている点は、利用者が自然な環境下で自由にのびのびと生活している点が挙げられる。事業所は小学校脇に建てられ、すぐ前の草花が咲くグラウンドを自由に散策したり、雨の日は体育館で気ままに歩行し、また小規模の利用者と合同でレクを楽しんだり、1ユニットの特性を活かした個別の介護に取り組んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe service results for staff, user satisfaction, and support.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム内に掲示し、共有を図っている。	事業所理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。申し送りや会議の場で理解を深め、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係もあり、友人の方達とは連絡があれば取次ぐようにし、家族の方達とは時間等を決めさせていただき面会していただき、交流に努めている。 近所の方から野菜をいただいている。	現在は相互に往来を自粛しているが、通例では地域代表の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の図書館のエントランスホールに作品を展示し、活動内容を知ってもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス流行の関係で会議は開催できていないが2カ月に1回、書面にて各運営委員へ資料を送り、何かあれば電話等で意見をいただいている。	通例では、家族、町内会、包括から参加を得ながら、定例で開催している。現在は書面開催となっているが、議題には運営状況やヒヤリハット・事故・ご家族に伝えたい事などを挙げ、後日電話で委員から意見を求め、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ流行ではあるが毎月1回包括主催のケース会議にリモートで出席し協力関係を築いている。運営推進委員として、資料を送っている。	行政の窓口とは、定例の運営状況報告の他、メール・電話での相談や集団指導の場で、随時助言・アドバイスを受けており、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲示している。施錠は行っているが、外に出たい要望がある時はその都度、鍵を開けている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と定期的に研修の機会を設け、禁止となる具体的な行為等について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は決してあってはならないという共通意識をもって言葉の暴力を含め虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用している利用者様はいないため、学ぶ機会がない為、研修などで学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用相談の段階で説明を行い、契約時には読み合わせをしながら、契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。運営推進会議はコロナの関係で開けていないが何かあれば電話等で意見や要望をいただいている。	通例では、主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、運営に反映している。現在はホーム便りや電話、窓越しでの面会時に情報交換の場を設け、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の引継ぎ等で職員の意見や提案を聞き反映できるように努めている。	日々の引継ぎや会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇を取得できる体制を整え、更に職員が希望する公休を取得できるよう調整している。時々叶わない時もある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が資格を取得できるよう援助している。又、コロナ感染の状況を見ながら内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係もあり、研修やケアカフェ等の交流の場がないためできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時の家族からの聞き取りや積極的に本人との会話を持つように努め、思いをくみ取るようにし、関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナの関係で数分しか面会は出来ていないが要望などを聞いたり、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時、入居時ともに時間をとり、聴き取りに努め、必要なサービスの見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事やレクを一緒に楽しむように努めている。洗濯物を畳んだり、干したり、下膳したり一緒に行ってもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの関係で家族交流会等、開催出来ないため、交流出来ないが、連絡や情報交換をし、誕生日プレゼントやクリスマスプレゼントを家族にお願いし関係が途絶えないよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会は現在の状況もあり、減っているが友人の方からの連絡があれば取次いだり、連絡したい要望があれば対応し関係が途切れないよう努めている。	通例では、家族、知人の来訪時には居室などでゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。現在は写真入りの便りの他、ガラス越しなど面会方法を検討し、支援している。	現在、コロナ禍における馴染みの方々との相互の関係継続についての方法を職員間で検討している。進展に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業やレクリエーション、行事等で交流をはかるように関わっている。利用者間での不和を早く察知し、良好な関係が作れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話等で家族からの情報をいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の話や言葉に耳を傾け、本人の意向に添うように努めているが、家族の介護に対する問題や経済面から難しいこともある。	終末期の意向も含め、利用者本人より思いや希望を聞き取り、記録・共有している。家族からも情報を得て、定期的にアセスメントを行い、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の家族・本人との面談や、日々の関わりの中で得た新しい情報は記録に残し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや表情等で体調の変化に気づき、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子、変化時の情報共有、会議等で話し合い、本人にとって何が必要か考え介護計画に反映している。	管理者、介護支援専門員を中心に、職員相互にモニタリング結果を検証して、本人・家族の要望や職員、医療機関の意見を反映した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1週間分の様子がわかる様式を使用し、日々の状況把握に努め、変化があれば記録に残し引き継ぎにて共有し、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行われていないが柔軟な支援やサービスの多機能化は視野に入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	タクシー券の使用等の提案をし、支援できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が望む掛かりつけ医を受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。家族対応が難しい場合は職員対応し、受診後の結果報告をしている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。受診は原則家族同行だが、状況に応じて柔軟に職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、体調の変化を見逃さないよう努め、異変があった際は、看護師に報告し支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係病院と常に連絡をとっており、入退院時の症状把握、退院後の対応等、情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまでの支援は行っていないが、家族には現在の状況を説明し、今後の話し合いをしている。又、病院とも連携を取っている。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回、救急救命講習を受けていたがコロナウイルスの影響で学ぶ機会がないので、実践力に対して不安がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練実施し、避難方法を身につけ、食料等の備品も確保している。停電に備え、灯油ストーブと灯油も常備している	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域町内会との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう、場所・声のトーン等に気を付けて対応している。	職員は利用者一人ひとりの想いや意向を聞き取り、応えるよう努めて、個々の誇りや個性を損なうことのないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしたいか」ということをまず確かめ自己決定できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で施設側に合わせていただくこともあるが、無理強いせず、利用者様、本人のペースに合わせた支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員はアドバイスにとどめ、基本的には本人の好みでおしゃれをしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの関係で食事を一緒に摂ることは叶わないが食器を下げる等出来る方には一緒に行っていたりしている。	利用者の希望を取り入れ、季節感を大切にしたい食事を心掛けている。好きなお手伝いをお願いし、楽しんで調理に参加出来るよう、職員が工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は一日を通じ把握記録している。また、個々の食事形態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、誘導をし、口腔ケアを習慣化している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせたパット・リハパン、ポータブルトイレの使用、時間による声掛け等、自立に向けた支援に努めている。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、自然な排泄となるように支援している。パッド類も個々に合った製品を選択、使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への動きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心がけ、乳酸飲料を取り入れている。便秘気味の方は、主治医より、薬を処方してもらい排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回個別入浴で対応している。入浴希望があればその都度、柔軟に対応している。	週2回の入浴を支援している。拒否がある人には時間・日程を変更し、本人の状態や希望に応じて柔軟な対応に努めている。同性介助の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息したり、安心して眠れるように環境作りに努めている。その時々に応じて、昼寝の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について、看護師の助言や資料に目を通し的確な服薬と症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみや能力に合わせ、作業や手伝いをしてもらおう等、張り合いや喜びのある生活を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係で外出や面会を禁止にしていたが、少し落ち着いた頃は、感染予防対策を徹底し、制限付きで行った。収束した際は、以前の様に外出等出来るように努めていきたい。	周辺の散策や外気浴、買い物等の外出は個別に声掛けし、少人数で行っている。感染防止に留意しながら、外出の機会作りに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金は事務所預かりとし、本人が使いたいように使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話を掛けたり、取次いだりしている。携帯電話を所持している方は自由に使用している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や換気に気を配っている。食卓の空間にソファ、テレビ、本等を設置、ベランダに長椅子を設置し、居心地の良い空間作りに努めている。	陽当たりの良い居間を中心に、和める雰囲気づくりに留意して、寛げる備品の配置や季節感に合わせた飾り付けをしている。また、温・湿度の管理や換気等に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ感染対策の関係で状況によっては自由に過ごしていただけないこともあるが、共同空間を数か所設け、希望の場所で過ごせるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの馴染みの物を持参してもらい、居心地の良い居室作りの工夫をしている。	居室には、自宅から使い慣れた家具や雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな手作りカレンダーや見やすい文字壁時計、平行棒手すりなど、安全と自立に向けた支援に努めている。		